

一下山王

巡見記は熊野権現酒田の宿に縣安多ありと記し
しるしは当社を安撫りてあると云ふや

酒田所の西砂山の上はあり上山王の社
当社を兼帯に山伏一人あり正月十日夜同
十六日の夜所中へ松勢進を出し社頭小松
を積ま紙を細の目し切符渡りといふ又
所の形を切符の方といふ所より回付し
競て火を弄りて松は燃ゆるを禱とす
其儀法羽衣の松は似たり渡りハ穢及ハ方
ハ又穀吉凶の卜とて社頭山伏神ありとい
て祈禱神形等意の人見物のため一群

集まらる人衆一と云ふ

に月中申日祭禮の夜神ありに於て
の形を定むに人あり二組とて雄獅子方
雌獅子方といふ同夜形を獅子頭を
渡りて翌申日所中へ神樂を渡りて
忘神社の社頭小獅子頭を渡りて
其事先年大社考に載付れを略之
林加賀屋三人の年寄を渡りて
より山神を所より所より
禱事より大名松を渡りて其日祈禱の事